

黄色いくちばしで黒いほっかむり姿 — イカル —

冬の終わり頃から春先に陶史の森で見かける“ほっかむり”姿の「イカル」。スズメ目アトリ科に属する鳥で、黄色の大きな円すい形のくちばしが特徴的です。この大きなくちばしで堅い木の実や草の実を砕き割って食べます。その様子から「豆割り」とか「豆回し」とも呼ばれます。

体は灰色、頭の前半分と翼・尾が青みがかった黒色で、翼に白と青色の帯があります。雄も雌も同色です。大きさは23cmでツグミと同じぐらいです。10羽以上の群れをなしてやってきましたが、北国へ帰っていく途中でしょう。しばらくすると見かけなくなってしまいます。図鑑で調べると「年中全国各地に生息している」と記載されていますが、陶史の森では夏や真冬には出会えません。

名前の由来は、鳴き声説と地名説があります。鳴き声が「キー コー キー」とよく通る声で「イカルコキー」とも聞こえるので「イカル」という名前になったという鳴き声説。また、昔、奈良の斑鳩^{いかるが}の里にたくさんいたためという地名説。どちらが本当なのかは分かりませんが、その姿はとても印象的です。運がよければ20羽ぐらいの群れに出会えます。

今年も会えるかな？ ぜひ陶史の森で探してみてください。



枝にとまるイカル



エサをついばむイカルの群れ

森	の
日	記

陶史の森が水墨画の世界に
— 大寒波襲来 — 12月24日(土)

師走の18日に初雪が舞ったと思ったら、24日には強い寒波が日本を覆い、北日本や日本海側を中心に大雪をもたらしました。陶史の森でも最低気温-8℃、積雪11cmを記録し、真冬の様相となりました。

ネイチャーセンター周辺やB B Q広場などが、紅葉が過ぎた冬枯れの景色から一転して銀世界となり、まるで水墨画のようでした。



陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

2月

- バードウォッチング(要申込 定員10人)
2月26日(日) 午前9時~11時
早春の野鳥を観察します。
陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。(雨天中止)

3月

- バードウォッチング(要申込 定員10人)
3月26日(日) 午前9時~11時
春の野鳥を観察します。
陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。(雨天中止)

※ネイチャーセンターでは、双眼鏡を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。